

新型コロナウイルス感染症のレベル分類について

令和 5 年 2 月 ● 日

新型コロナウイルス感染症広島県対策本部決定

1 趣旨

新型コロナウイルス感染拡大防止のための広島県の対処方針（令和 2 年 5 月 15 日制定）の別紙 1「オミクロン株対応の新レベル分類と対策」により、本県における現在の新型コロナウイルス感染症のレベル分類を判断する。

2 保健医療の負荷の状況等

(1) 保健医療の負荷の状況

- 診療・検査医療機関の患者数は、新規感染者数や受診・相談センターへの相談件数、季節性インフルエンザの流行状況等からみて、1月中旬頃から、減少傾向が継続しているものと考えられる。
- 広島市消防局の救急搬送困難事案は、12月19日から25日の週をピークに減少しており、救急外来の受診者数も減少傾向にあるものと推測される。
- 病床使用率は1月中旬頃から、減少傾向が継続しており、2月20日時点で最大確保病床使用率 14.4%、重症病床使用率 1.9%となっている。
- 重点医療機関における医師・看護師の欠勤者数や入院医療及び外来診療で「停止」または「制限」となっている割合は、1月上旬頃から減少傾向が継続している。

(2) 社会経済活動の状況

- 職場の欠勤者が増加し、業務継続に支障が生じる事業者があるという情報はなく、入院医療及び外来診療で「停止」または「制限」となっている割合が、1月上旬頃から減少傾向が継続していることから、職場の欠勤者が増加し、業務継続に支障が生じる事業者は、ほとんどないものと推測される。

(3) 感染状況

- 感染者数は、1月中旬頃から、減少傾向が継続しており、2月20日時点で新規感染者数 194 人、直近 1 週間の人口 10 万人あたり新規感染者数 144.1 人となっている。

3 専門家等の意見

- 県内の新規報告者数は減少傾向が続いており、低い水準にある。また最大確保病床数に対する病床使用率もレベル 2 の指標である「概ね 30~50%」を下回って推移する等、医療への負荷は小さくなっていると考えられる。
- 以上のことから、現在の広島県の感染状況等の評価は、感染小康期に当たる「レベル 1」の状態にあると判断する。

4 レベル分類の判断及び変更

本県における現在の新型コロナウイルス感染症のレベル分類は、保健医療の負荷の状況等を踏まえ、専門家等の意見を参考にし、総合的にみて、「レベル 1」の感染小康期に該当するものと判断され、本日付けでレベル分類を「レベル 2」から「レベル 1」に変更する。